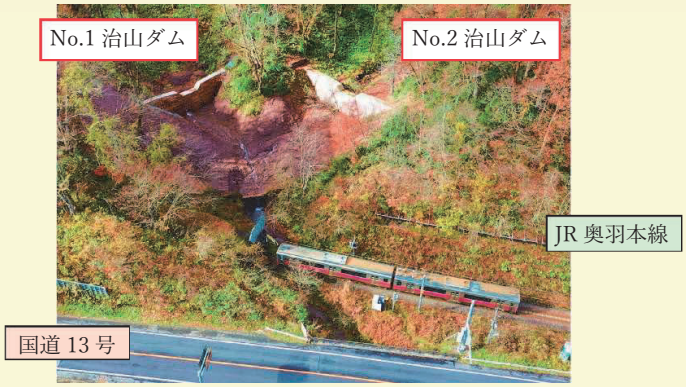
事例Ⅳ－１　令和６年７月25日からの大雨における治山施設の効果

秋田県湯沢市の南部に位置する峠の沢は、直下に、秋田県と山形県をつなぐ重要な幹線である国道13号とJR奥羽本線が並走している。平成30(2018)年８月に発生した豪雨により当該渓流が荒廃し鉄道付近まで土砂が押し寄せたため、秋田森林管理署湯沢支署は、「防災・減災、国土強靱化のための５か年加速化対策」により下流の国道・鉄道等の保全に寄与する復旧治山工事を実施し、令和４(2022)年までに２基の治山ダムを完成させた。

その後の令和６(2024)年に発生した令和６年７月25日からの大雨では、北日本を中心に土砂災害や河川氾濫などの被害が発生した。秋田県においても、県内77か所で山地災害が発生する中、峠の沢では、設置した２基の治山ダムが渓岸・渓床の侵食を防止し、渓流を安定させるとともに下流への土砂流出を抑制した結果、国道や鉄道等への被害が防止された。



峠の沢における施工箇所及び保全対象

令和４(2022)年11月に完成した直後の状況
(No.1治山ダム上流側)

令和６年７月25日からの大雨後の状況
(No.1治山ダム上流側)

(路網整備の推進)

国有林野事業では、機能類型に応じた適切な森林の整備・保全や林産物の供給等を効率的に行うため、自然条件や作業システム等に応じて林道及び森林作業道を適切に組み合わせた路網の整備を進めている。このうち、基幹的な役割を果たす林道については、令和５(2023)年度末における路線数は１万3,498路線、総延長は４万6,248kmとなっている。

(イ)地球温暖化対策の推進

国有林野事業では、中長期的な森林吸収量の確保・強化に向けて、主伐後の確実な再造林や、適切な保育等の森林施業に取り組んでおり、令和５(2023)年度には約0.9万haの植栽や約13万haの保育等の森林施業を実施した。